

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
15123	現代芸術概論	2単位 前期	1~2	講義	土屋 誠一

■**テーマ** 諸芸術を通じ「現代」という時代を考える。

■**授業の概要**

現代の芸術は、しばしば語られるように横断的かつ異種混交的な様相を呈している。高級文化と大衆文化の階層性も既に溶解し、インターネットなどの今日の情報環境を下部構造として、多種雑多な「表現」が溢れ返っている現状である。そのような今日の現況において、「芸術」はいかなる位置を占めているのか、そして、今日における「芸術」とは、そもそもいかなるものであるのか。本科目では、美術を中心として、写真、映画、建築、文学、音楽、サブカルチャー etc. といった、様々なジャンルの現状を概観し、現代の思想や社会環境との関わりを差し挟みつつ、今日の「芸術」を把握するとともに、「現代」の諸問題を理解することを目的とする。なお、講義内容は、担当教員の美術を中心とした批評家としての実務経験をふんだんに活用するものとなる。

■**到達目標**

- ・「ポストモダン」の時代概念を通じて、現代の諸芸術の問題を理解する。

■**授業計画・方法**

基本的には、下記のようなテーマをもとに講義を進めていくが、科目の本旨が「現代」にあるため、担当教員の批評家としての実務経験に基づき、講義の過程で生じた最新のトピックを反映させていくなど、いわば実践的な授業を予定している。したがって、必ずしもこの順序で進むとは限らない。また、講義全体を通じて「ポストモダン」という時代概念を軸として、芸術作品を読み解いていくこととする。

1. 「現代」の「芸術」とは
2. 「ポストモダン」とは何か（理論編）
3. 「ポストモダン」とは何か（応用編）
4. 現代美術の現況（紹介編）
5. 現代美術の現況（分析編）
6. 都市と建築 デザインの諸相
7. 映像メディアとその表現
8. 情報環境と表現（紹介編）
9. 情報環境と表現（分析編）
10. まんがとアニメの歴史と表現
11. おたく化する世界
12. グローバリゼーションと芸術（紹介編）
13. グローバリゼーションと芸術（分析編）
14. 現代における芸術の可能性（理論編）
15. 現代における芸術の可能性（理論編）

※定期試験は実施しない。

■**履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）**

- ・ただ受動的に漫然と話を聞くだけならば、受講しても無意味である。
- ・現代を考えるために必要な話題を、講義中に様々なかたちで提示していくので、そこから各自の関心に応じて主体的に問題意識を汲み取って、主体的な予習復習に役立てて欲しい。

■**成績評価の方法・基準**

□**方法** 受講態度（20%）、学期末レポート（80%）

□**基準** 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■**教科書・参考文献（資料）等**

□**教科書** 特になし

□**テキスト** 授業内で必要に応じて紹介する

□**参考文献** スチュアート・シム『ポストモダンの50人』（青土社、2015年）